

# 防災・減災対策

## 防災・減災への取組は

答弁: 地域防災計画では災害は必ず起こるということが前提となっており、大規模災害が起きても適切な対応がとれるよう災害に強いまちづくりを努めてまいりたいと考えております。

**森本 寿子 議員**  
 日本を襲った震災の教訓から被災者支援システムの導入、ICT・BCPの策定、防災拠点への行政無線LAN、WiFi設置、避難者カートの有効活用等の4点を提案させていただきましたが、この点を含めて防災・減災への取組についてのご意見を伺います。

**市長** 地域防災計画では災害は必ず起こるといことが前提となっており、事前の防災に対する意識を市民と行政が共有することが大事であります。また、地

域との連携が非常に重要であることから、自主防災組織を結成し、防災訓練も含めて防災に対する意識を高めていただいております。今後もさまざまな防災訓練を通して、その効果、実効性を確認するとともに、これまでの大規模災害を教訓に、WiFiなども含め、全国各地で取り組んでいる防災・減災対策について研究を重ねながら、引き続き市民・地域の皆様、関係機関等と協力、連携し、大規模災害が起きてても適切な対応がとれるよう災害に強いまちづくりに努めてまいります。

# 医療体制

## 医療体制確保に向けた考えは

答弁: 医療体制の確保については引き続き様々な施策を推進するとともに、済生会病院の誘致に向け、最善の努力を重ねてまいります。

**小勝 裕真 議員**  
 小勝 高度急性期、あるいは急性期医療を担う病院の開設は、長年の市民の悲願です。済生会栗橋病院の一部機能の加須市への移転、さらには救急クリニック開設など、医療体制の向上が必要で、医療体制の確保に向けた考えをお伺いします。

**市長** 医療体制の確保については医療法の規制等があり、厳しい状況であります。引き続き初期救急医療対策や「とねつと」をはじめとする様々な施策を推進してまいります。その中で済生会病院の誘致については、覚書に基づく加須市の

責任を着実に果たしていくことが済生会の最終的な決断に繋がっていくと考えており、用地の確保や財政支援への対応についてスピード感を持って進めてきたところで、

また、これまで信頼関係を構築してきた済生会栗橋病院と連携を図りつつ、課題の成就に向かって引き続き最善の努力を重ねてまいります。

さらに、西山救急クリニックについては、できるだけ早く確実に開業され、医療機能が提供できる体制を整うよう最善の支援をしてまいります。

# 空家対策

## 充実した空家対策について

答弁: 空家等対策における課題を自治協力団体等と連携しながら解決するとともに、空家管理システムの稼働により、空家の利活用の促進について取組を進めてまいりたいと考えております。

**竹内 政雄 議員**  
 竹内 持ち家の空家については、防災、衛生、景観等の生活環境上の問題から平成26年11月に空家特別措置法が制定され、一歩前進したと思っております。空家特別措置法施行後の取組と課題について、また、空家バンクへの今後の取組についてお伺いします。

**環境安全部長** 平成27年10月に加須市空家等対策協議会を設置し、空家等実態調査及び空家等の意向に関するアンケートを実施しました。さらに、加須市空家等対策計画を平成28年9月に策

定いたしました。空家のなかには相続関係が複雑で管理者の特定が困難な例があることや、常に最新のものと把握し管理する必要があることから、専門知識を持つ方や地域の実情に詳しい自治協力団体と連携し、課題解決に取り組んでまいります。

また、平成29年1月末に稼働予定の空家管理システムでは、情報を二元管理し、空家バンクへの登録希望者の情報も管理することから、今後、利活用の促進について取組を進めてまいりたいと考えております。

# 地域農業

## 加須市の地域農業の5年後、10年後は

答弁: 地域農業を持続発展させるために、さまざまな施策を推進し、気概と誇りを持って農業に取り組まれている方々を支援してまいります。

**酒巻 ふみ 議員**  
 酒巻 加須市の地域農業は5年後、10年後どうなっているのでしょうか。担い手は十分にいて、年齢構成のバランスはとれているのでしょうか。まとまった農地を有効的に利用しているのでしょうか。地域農業の目標とする姿についてお伺いします。

**経済部長** 平成28年3月末時点における法人や共同による経営体を除く認定農業者241人の内訳は、40歳未満6人、40歳以上60歳未満50人、60歳以上70歳未満133人、70歳以上52人となっております。若い方は少ない状況ですが、地域の若

手農業者が集まり経営改善等に熱心に取り組んでいる団体、ヤング農マンKAZO等には、既に法人経営による大規模に米づくりに取り組んでいる方、一定の研修期間を経てから取り組もうとしている方などもおり、今後の若手の活動に期待を寄せているところで、

地域農業を持続発展させるために、担い手を確保し、安定的で魅力ある経営を確立し、農地の多面的な機能を良好に維持することを目標に、さまざまな施策を推進し、気概と誇りを持って農業に取り組まれている方々を支援してまいります。